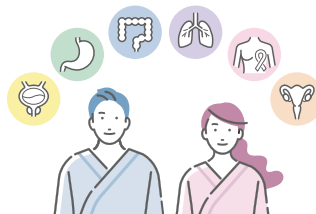


今年こそは がん検診を受けましょう



「早期がん」はがん検診でないと発見できません

がんは、早期に発見・治療すれば治る可能性が高くなります。しかし、早期のうちには自覚症状がないことが多いため、症状を感じて受診したときにはかなり進行している可能性があり、臓器によっては治すことができない場合もあります。

早期でがんを見つけるためには、毎年がん検診を受けることが有効です。健康だと思っているときこそ、がん検診を受けましょう。

推奨年齢になったらがん検診を受けましょう

国は、「胃がん検診」「大腸がん検診」「肺がん検診」「乳がん検診」「子宮頸がん検診」の5つの検診を推奨しています。これらの検診を定期的に受けることで早期にがんを発見することができ、適切な治療によってがんによる死亡を減らせることが科学的に証明されています。

男性・女性



大腸がん検診

40歳になったら
1年に1回

胃がん検診

50歳になったら2年に1回
胃部X線検査に関しては、40歳になったら年に1回の実施も可とされています。

肺がん検診

40歳になったら1年に1回
非喫煙者も肺がんが増えているため検診を受けましょう(被保険者は定期健康診断で実施されています)。

女性



子宮頸がん検診

20歳・30歳になったら2年に1回

乳がん検診

20歳・30歳になったら2年に1回

当健保組合では各種がん検診の費用補助をしています

当健保組合の各種がん検診の費用補助



胃がん検診

胃部X線検査・胃カメラ

40歳以上の
被保険者および被扶養者



大腸がん検診

便潜血反応検査(2日法)
【注】大腸内視鏡検査は対象外

40歳以上の
被保険者および被扶養者



子宮頸がん検診

子宮頸部細胞診
【注】子宮体部細胞診は対象外

20歳以上の女性
被保険者および被扶養者



乳がん検診

視触診・乳房超音波(エコー)
マンモグラフィー

30歳以上の女性
被保険者および被扶養者

1回/年

自宅でできる郵送式がん検診もあります



大腸がん検診

自分で採取した便を
検査機関に郵送して行う

小規模事業所・
40歳以上の
被保険者



前立腺がん検診

自分で採取した血液を
検査機関に郵送して行う

50歳以上の
男性被保険者



胃がんリスク (ピロリ菌) 検診

自分で採取した血液を
検査機関に郵送して行う

30歳以上の
被保険者および
被扶養者
(過年度実施時の
陰性者は除く)

1回/年

1回/3年

※被保険者のがん検診(胃・大腸がん検診)は、一部事業所で集団検診を実施します。
実施されない事業所の方はお住まいの市町村が実施するがん検診が最寄りの医療機関で受診してください。

▶詳細につきましては、
当健保組合のホームページをご覧ください。



問題

太っているより痩せている方が
健康リスクが低い ○? ×?

答え: ×

「太っていると生活習慣病になりやすい」などのイメージから、痩せている方が健康リスクが低いと思われがちですが、実は痩せ過ぎてしまうとさまざまな疾病の発症要因となります。

痩せているから大丈夫と健康状態を見た目で判断せず、健診結果などを参考に生活習慣を見直しましょう。



詳しくは
WEBで▼

